

経営比較分析表（令和2年度決算）

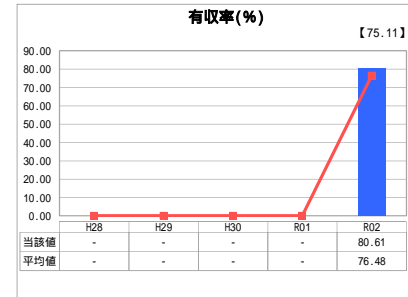
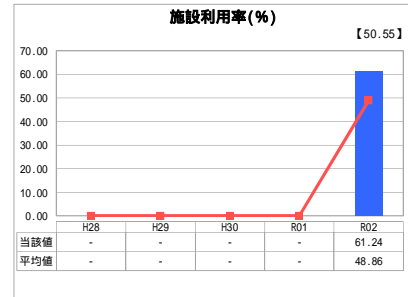
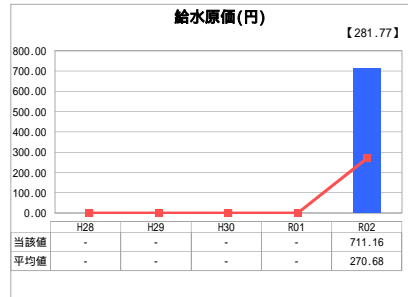
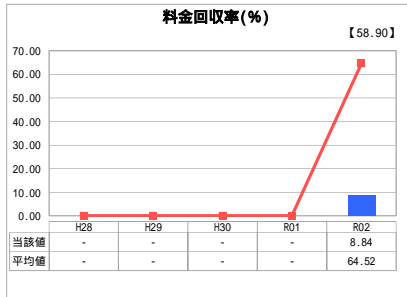
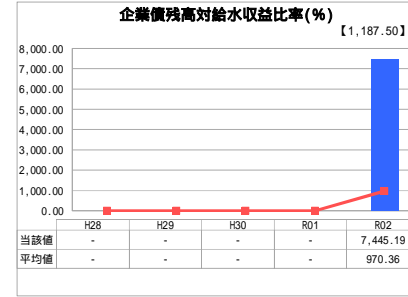
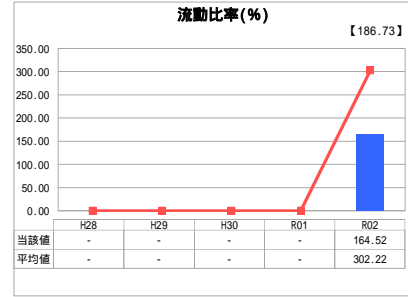
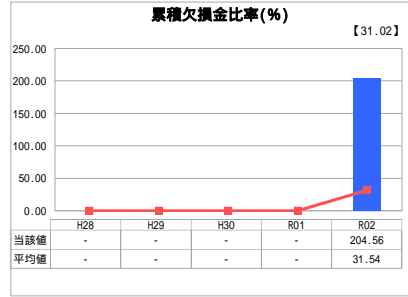
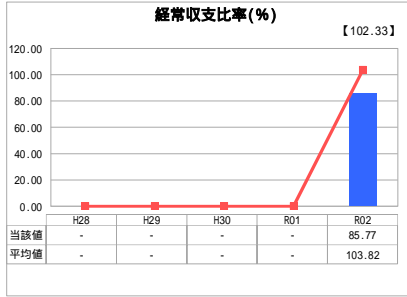
神奈川県 相模原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.86	0.30	2,685	

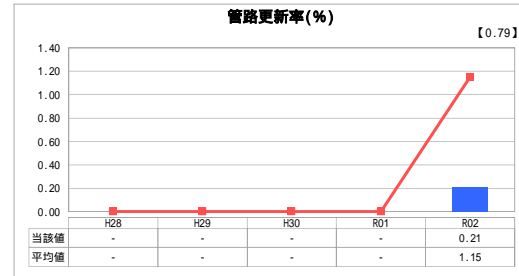
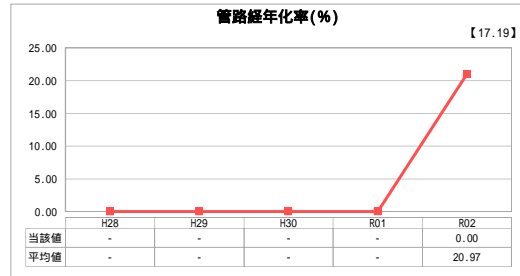
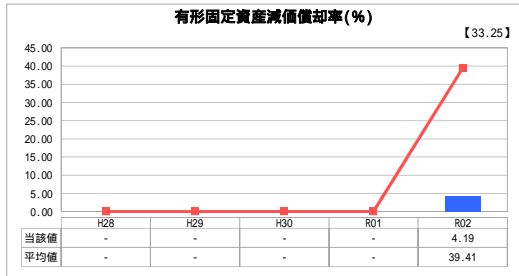
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
718,601	328.91	2,184.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,164	38.80	55.77

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の簡易水道事業は、飲料水の安定供給を目的として昭和46年度より供用を開始しました。計画給水人口は約2千人で、小規模かつ中山間地に施設が点在しているため、効率化を図るには限界がある状況です。料金は市域の大部分の区域の県営水道より安価な料金設定となっています。また、過去の整備事業の償還金や維持管理経費が多額であることから、類似団体平均と比較すると、給水原価、経常収支比率及び料金回収率は悪い結果となっています。

2. 老朽化の状況について

令和元年度までに実施してきた簡易水道統合整備事業に合わせて多くの管路を更新してきました。統合整備に係る費用については、国庫補助金と起債を財源としたことから、企業債残高対給水収益比率が高い数値となっています。なお、平成15年頃に布設した管路については、今後、計画的に大規模更新を行っていく必要があります。

全体総括

本市の簡易水道事業は小規模かつ中山間地に位置していることから維持管理に多額の費用を要し給水効率が非常に悪い状況です。また、過去の整備の企業債残高も多額であり、給水収益のみでは経営が困難であるため、多額の一般会計繰入金が必要としている状況です。今後も人口減少や施設の老朽化など、ますます事業経営が厳しい状況が見込まれる中、更なる経営の健全化を図るとともに、大規模水道事業者である県営水道との段階的広域化に向けた取組みを進める必要があると考えております。